

令和2年 飯田市教育委員会 11月定例会会議録

令和2年11月12日（木） 午後 3時00分開会

【出席委員】

教育長	代田 昭久
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	伊藤 昇
教育委員	三浦 弥生
教育委員	上河内 陽子

【出席職員】

教育次長	今村 和男
地域人育成担当参事兼生涯学習・スポーツ課長	
	青木 純
学校教育課長	桑原 隆
学校教育専門幹	湯本 正芳
文化財担当課長	馬場 保之
市公民館副館長	秦野 高彦
文化会館館長	棚田 昭彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	久保敷 武康
歴史研究所副所長	北原 香子
学校教育課長補佐	滝沢 拓洋
教育支援指導主事統括	牧原 雅
教育指導専門主査	田中 清一

日程第1 開 会

○教育長（代田昭久） 改めましてこんにちは。ただいまより令和2年飯田市教育委員会 11 月定例会を開会したいと思います。

本日もよろしくお願いいたします。

日程第2 会期の決定

○教育長（代田昭久） 日程の第2、会期の決定。

会期は、本日1日とさせていただきます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（代田昭久） 日程第3、会議録署名委員の指名。

今月の会議録署名委員、北澤正光教育長職務代理者をお願いしたいと思います

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（代田昭久） よろしくお願ひします。

日程第4 会議録の承認

○教育長（代田昭久） 日程第4、会議録の承認、10月定例会での会議録のほう、ご確認をお願いしたいと思いますよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） それでは、承認ということでよろしくお願ひします。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（代田昭久） 日程第5、教育長報告事項。

それでは、お配りしたA4、1枚と少し厚めの冊子というか2枚、県教育委員会陳情報告と秋季研修会反省、2つご用意いただければと思います。

報告事項としては3点です。

まず1点としては、下伊那教育七団体連絡会陳情報告ということで、先月どんな要望をしたのかということで、大きく4つ要望したということをお話しさせていただきましたが、報告書が上がってきましたのでご報告ということになります。

それぞれ県教委から、また県教育長からどんな回答があったのかということで、議事録になっていますのでご覧になっていただければと思います。内容については、今日は深く触れませんが、私のペラ1のほうで書かせていただきましたが、来年度に向けてはもう少し事前準備と、いろんな団体の要望を上手く入れたら良いなという話し合いをしています。

11月5日には下伊那の校長会と飯伊市町村教育委員会連絡協議会のほうで懇談する機会がありました。そのときには飯田下伊那の教育課題について話し合うんですが、今、飯田下伊那の大きな教育課題としては、先生がいない、少ないということで、教員が例えば産休とかになってしまうとその代替する先生がいない。講師が退職されるとその講師がいないという現状で、その人捜しが非常に問題になっています。通常、いろいろな問い合わせをすればいろいろなところから来ていただける地域であればそういう状況特にはないんですが、こういう飯田下伊那の中だと、すぐやっていただけるというのが非常に少なく、そういった人材確保については、本当に教育委員会と校長会との喫緊の課題なので、こういうことでやっぱりしっかりとこういうところの県にも訴えていこうということを確認したところです。

いずれにしろ、こういった団体がこの機会をもっともっと有効に活用していこうと、そんな話し合いをこの陳情報告を受けてしておりますので、ご承知いただければと思います。よろしく願いいたします。

2番目としては、10月16日に行われました飯伊市町村教育委員会秋季研修会、本当にお疲れ様でした。今年は分散開催ということで、それぞれ委員さんの皆さん、私は三浦委員と一緒にだったんですけども、それぞれの分散会での状況いかがだったでしょうか。また報告のところに聞かせていただければと思います。

全体の反省会を11月6日の連絡協議会で行いましたが、全体としては「非常に良かったな」ということのご意見を教育長また教育長職務代理からいただいています。特に喬木村が今年、担当になったということで、それも機会だったんですが、やはりICTを進めて行く上でその実感値がないと良いも悪いもわからないということで、その良さと、また課題なんかについても共有ができたことは意義が大きかったんじゃないかなというふうに考えています。

ここは飯田下伊那でやっているところが大きな意味があると思うんですが、今まで喬木村が一步、少し先んじてICT教育を進めていました。飯田市もこれで、今1人1台態勢が整っているわけですが、これで飯田市で一生懸命やっていた先生が全然もう入っていない学校にいて活躍できないとか、また逆に何にも入っていないところから飯田市にきて面を食らってしまうということがあると、これ飯田下伊那全体のレベルっていうのがなかなか高まらない

いということで、今回、本当に年度当初からGIGAスクールにおいては14市町村が同一歩調、同じ方向に向かっていきたいと思いますというところでの話し合いを繰り返しているところです。その中でもこの教育委員も14市町村の教育委員が共有できたというのも大きかったなあというふうに考えています。

またここに書かせていただきましたが、一昨日、11月10日には今教育委員会のICT実務担当者というのがあります。具体的にどんなものを入れるとか、予算化をしたりとか、そういった担当者がいますが、その担当者を集めてのこれ第2回目になりますが、実務担当者会議をオンラインで行っています。

こちらのほうもやはり飯田市みたいに担当者がいたりとか、こうノウハウがある人がいればいいんですけども、通常、1村1小学校1中学校くらいだと、なかなか担当者自身も情報共有ができない。具体的には、例えば1人1台のIDを振るということがお約束というかベースになっているんですが、そういうこともどうやってやったらいいのかわからない。

結論としては県からそういったものが通知が来ているんですが、そんなこともまだ検討されてないという状況がありますので、こういうふうに、みんなと一緒に情報共有する中で歩調を合わせることができるんだろなあというふうに思いますし、その逆に言うと重要さとか、一緒にやっていくことの難しさ、重要さを感じているところではありますが、少なくとも今の状況では、今年度中に飯田下伊那のすべての学校で1人1台端末の登録をしようという環境で進んでいくことが本当に大きなことだなと思っていますし、飯田市としてもしっかりと利用していきたいなあそんなふうに思っています。

それで3番目は、その中でも飯田市の状況について、現状についてお伝えしたいなと思います。ご存知のとおり10月に1人1台のPCの貸与が始まりました。学校訪問に行くときにも学校で使われている様子ご覧になっていただけたかと思います。11月に入ってから家庭への持ち帰りが始まっています。すぐ始めた学校と半ばから家庭に持ち帰るところ、いろいろありますけれども、順次、順調に始まっているかなと思います。

先生方の研修を夏休みを含めると3回、いわゆる中核教員、学校のリーダーになってもらう人のために3回の研修をしました。今はその中核教員が学校の中で校内の研修をしていくということで、2回目の研修が校内で行われています。10月12日の現在で24校、来週中にはすべての学校で2回目の校内研修終わるということで、いよいよ各学校でスタートできるかなというふうに思います。

実際に今週も公開研究授業みたいなものが始まっています、月曜日には西中学校、水曜日には上久堅小学校の研究授業が、私のほうも出向いて見てきました。特に上久堅小学校で

は、いわゆる竜東中学校区の研究授業ということで、上久堅、下久堅、千代、千栄、竜東中学校のいわゆる合同の研修なのですが、上久堅小学校には集まりません。それぞれの学校の教室で自分のクラスで研修していただくということで、端末自体は 40 端末以上、それぞれをつないで遠隔で研修もやるというスタイルも実施できています。

授業の内容も本当に良かったと思いますし、こういう形でそれぞれの授業を見合うという形ができれば、どんどん良い形になるかなあという手応えを感じています。

ぜひ委員の皆さんも授業を見てみたいということであれば、公開授業をしていますので、こちらのほうは専門幹なり私なりでも結構ですけど、連絡いただければぜひ参観をしていただければと思います。

今年度の大きな目標は、すべての授業、すべてのクラスにおいて一度クラウド活用、共同的な授業を試みようということが今 1 つの大きな目標にしています。どんどん始まっているので、これに対しては達成するとともに、このすべてのクラスにできるようになればコロナの第 3 波がきて休校になったとしても、十分対応できる状況に整いつつあるかなとそんなふうに思っています。

ただ、いま順調、順調と言いますがけれども、学校現場としては苦手な先生もいますし、機器の不具合が零ではありません。そういったところも含めて学校現場の困りごとにしっかりと耳を傾けて、学校現場を支援しながらこの ICT を進めていきたいな、そんなふうに思っています。

また委員の皆さんにも、引き続きご支援いただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

私のほうからは、教育長の報告以上です。

何かご質問等ありますでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） なければ、また次の機会等でご発言いただければと思います。

日程第 6 議案審議（2 件）

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第 6、議案審議です。

本日の議案審議、2 件です。

議案第 72 号 学校医の任命について

○教育長（代田昭久） まず議案第 72 号、「学校医の任命について」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第 72 号「学校医の任命について」お願いをいたします。

学校保健安全法の規定に基づき、学校医の任命をしたいものでございます。

学校医の氏名、住所、それから勤務先につきましては、記載のとおりでございます。

和田小学校と遠山中学校の学校医、内科の学校医ということで任命をさせていただいておりました山崎敬夫先生が先月の 10 月 2 日に逝去されました。後任の学校医につきまして、飯田医師会よりご推薦をいただきましたので、10 月 3 日付けで任命をしたいというものでございます。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） ただいま、議案第 72 号の説明がありました。ご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） なければ、議案第 72 号、承認ということでよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

議案第 73 号 令和 2 年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（代田昭久） 続きまして、議案第 73 号、「令和 2 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」お願いします。

桑原学校教育課長、お願いします。

◎学校教育課長（桑原 隆） それでは議案第 73 号、「令和 2 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」でございます。

認定の対象者につきましては、別紙でご用意させていただいたとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて認定をいただきますようご提案を申し上げます。

よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） ただいま、議案第 73 号についての説明がありました。ご質問ご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（代田昭久） それでは、議案第 73 号、承認ということによろしくお願いいたします。

日程第 7 協議事項

○教育長（代田昭久） 続きまして、日程第 7、「協議事項」、今月の協議事項は、長期欠席児童生徒の状況についてご議論をいただきたいと思います。

それでは牧原教育支援指導主事統括をお願いします。

◎教育支援指導主事統括（牧原 雅） それではお願いをいたします。

資料 N o 1 の 1 ページからお願いをしたいと思います。

「令和元年度不登校の状況について」県の心の支援課から出ているものについてご覧ください。

1 番上のラインボックスに小・中学校における不登校児童生徒数 3,551 人、前年度から 322 人増加ということで、状況としては全国と同様に長野県も過去最多となっているという現状でございます。

また飯田市につきましては後ほど申し上げたいと思いますので、めくっていただきまして、2 ページをご覧ください。「90 日以上欠席している不登校児童生徒及び欠席日数別構成比」ご覧いただきたいと思いますが、小学校の県、それから全国の割合、中学校の県、全国の割合のところご覧いただければと思います。

それでは 3 ページをご覧ください。「令和元年度長期欠席・不登校調査のまとめ」の最終決定版ということになります。表 1 をご覧ください。「理由別長期欠席者数の推移」ということで、令和元年度につきましては、少し黒塗りになっております年度の 1 という 1 番下のところをご覧ください。

そのところの小学校の「不登校在籍比」をご覧ください。飯田市が 0.87、長野県が 1.11、全国が 0.83。続いて中学校のほうを同じようにご覧ください。飯田市が 3.91、長野県が 4.20、全国が 3.94 という割合でございます。ご覧いただきますとわかりますように、飯田市の現状につきましては、長野県のパーセンテージよりは低い状況でございますが、おおよそ全国の平均と同様の状況でございます。

それではもう 1 ページめくっていただきまして、4 ページになりますが、今年度上半期の長期欠席児童生徒の状況について報告をしたいと思います。

まず 1 の表、上半期、30 日以上欠席した理由別児童生徒数を示しております。その中の不登校をご覧ください。左が小学校で 25 名、右が中学校で 69 名です。そのすぐ下に参考欄の

ところに昨年同期と比べましてというところがございます。小学校の場合は、昨年が 23 名で今年度 25 名ですので 2 名の増、中学校は昨年同期が 74 名で今年度が 69 名ですので 5 名の減となっております。

続いて 2 番が、長期欠席の理由と所属学年のところになります。ご覧いただきたいと思いますが、不登校の中学 1 年、2 年、3 年の今年度の数字をご覧ください。中学 1 年が 13 名、中学 2 年が 24 名、中学 3 年が 32 名現在不登校になっています。この子供たちが昨年度の段階でどうであったかということですが、これも下にあります参考をご覧ください。参考の元年度の中学 1 年生の場合は昨年度ですので、小学校 6 年になります。小学校 6 年の括弧付き、小学校 6 年度の末の人数が 13 名おりました。その子供たちが中学 1 年になりまして今現在 13 名、こういう見方でございます。同数の状況でございます。同じように中学 1 年の元年度の括弧付きを見ますと 28 名、昨年度末不登校のお子さんがおりました。そうして今現在の調査では 24 名に減っているという状況であります。同じく中学 2 年の昨年度末が 48 名おりました。現在、中学 3 年生で不登校の子供たちが 32 名ということで現在減ってきているという状況でございますが、この後、後半の半年の支援にも関わっているかというふうに思っております。そんな状況でございます。

全体を通しまして、各学校の先生方も大変熱心なお取り組みや、飯田市で先ほどもご報告させていただきました配置をしております教育支援指導主事の取り組み等によりまして、まだ増加の傾向があるものの、全国平均程度というような状況でございます。しかし、不登校と呼ばれている子供たちの中にも 90 日以上、あるいは今回の調査のところに、1 日も登校していない子供たちの調査もございます。そういったできてない子供たちもいます。

社会的な自立に向けて学びの場が得られていない子供たちもおりますので、予防的な支援、そして対処的な支援、さらに先ほどご報告してまいりました取り組みをさらに充実してまいりたいというふうに考えています。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいま、長期欠席児童生徒の今年度の状況について説明がありました。委員の皆さんからご意見等、またご質問があればお願いいたします。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 県、全国で子供全体の数が減っているにも関わらず、不登校、長期欠席の子供の数が増えている、在籍比率が年々上がっているという状況にある中、本市では教育支援指導主事を中心にしながら学校と連携して取り組んでいただいて、本当に丁寧

に取り組んでいただいている成果が、この上半期の結果に出ているんだなというふうに思います。

そうではありますけれども、4ページの例えば3番のところにありますように、今、最後に牧原統括からありましたけれども、1日も登校していないというお子さんも市内では全体で10人いるというような状況があるわけで、学校へ登校するかどうかはともかく、そのお子さんはもちろん、そのお子さんを見守っている家族の思いとかを考えると、本当にいたたまれない思いというのが常にあると思うのです。なので、例え登校できなくても学校としては、必ず声がけをして関わりを常に持ちながら、少しでも学べることがあれば場所は学校ではなくてもいいので、学びの場を保証していくという飯田市のこの基本的なスタンスを今後ともぜひ続けていってほしいなと思います。

以上です。

○教育長（代田昭久） ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 報告いただきまして、ありがとうございます。

不登校に関しましては、本当にこういったデータでは語れないような部分がたくさんあるのだというところは理解しております。

本当に子供たちの後ろにある本当に発達障害ですとか、家庭環境ですとか、そういったものもあったり、またその子供たちを見守るっていったそういう姿勢ですとか、そういうところで本当に個別にお取り組みいただいていると、そういうことがある上でのここには数字が出ているんだなと思います。

そんな中でも実際の数としましても、不登校というそういった子供たちが減少傾向にあるんだよってというような、そんなところもデータでも見せていただいたと、こんな背景には大きな個別の関わりというものを本当にありがたいなと思っていますし、そのようにまたやっていただけたらありがたいなというところが思うところです。

それで1つご質問というか、大きな質問になるかもしれませんが、3ページの冒頭に長野県が多いというところをちょっとお聞きしました。飯田市は全国平均と比べて同じというのがありましたけれども、長野県とすると全国よりも多いと、長野県で県のほうでは何か全国よりも多いといったところでの、こういった原因というのは分析の何か結果というものが示されたりはしているんでしょうか。長野県として全国よりも多いといったところは何かございますでしょうか。

○教育長（代田昭久） 牧原統括、お願いします。

◎教育支援指導主事統括（牧原 雅） はい。ちょうどこれ発表されましたのが、本当にここ数日、発表されたばかりでありまして、今現在、今年度については、長野県教育委員会のほうから「こういったものが原因で」というところまでは触れたものが出ておりませんが、昨年度までも、やはり同じような傾向が続いておりましたので、私どもが取り組んでいる取り組みと同じような点を今、県で課題に出していったという、1つの点は学校へ戻すということがすべてではないんだというような考え方をぜひとも大切にしてほしい、いろんな学びの場を考えてやってほしいということは1つと、やはりもう1つは、学校あるいは学級が居心地が良い場にしてやってほしいんだと、その辺が大きな2点かなというふうに思います。

◇教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございました。

わかりました。本当にこの不登校って、本当に括ってしまうと、数が増えた減ったとか、多い少ないということになりますけれども、その不登校というそういった学校に適應する、できるできないといったような、そういうふうに過剰に適用していかないといけない、苦しくてもやるんだっていうようなそんなことを強いるのか、それとも本当にその居場所ですとか学ぶ環境ですとか、そういうことを考えた上でっていうことになってくれば、本当にその数の上限ではなくて、後ろにあるそういう理由をお聞きすると、やはり県として増えたということを一概に全国と比べてどうこうっていうふうに評価する以前にそういった点があるのだからっていうふうに見させていただけのんだっていうことを少し感じました。

ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

若干補足させていただくと、昨年度、長野県がこれ非常に多くなるっていう状況にあったので、どんな対策をとっていったらいいかということで、私もその研究会の委員になって2回ほど会議に出席をさせていただきましたが、その内容や方向性も、今も牧原統括からあったように、増えたので悪いていうふうに捉えでなくて、増えたのであればその子がその場で学びを続けられる環境、選択的な学び場っていうものは、長野県、もしかしたら少ないんじゃないかと、実際に私も東京で活動をしているときには、確かにいろいろあるんです。いろいろなNPO法人やちょっと電車に乗れば行けるとかというところからすると、交通の不便さやそういった選択のものが長野県にあるとしたら、その数字の多い悪いよりもそういった学びをやる方向性でっていうことの話合いが昨年なされている状況で、じゃあ具体的にどのくらい進んでいるのかっていうのは、ちょっとまだ私も把握していないんですが、そんな方向で今やっているところなので、飯田市の方向性とも大きな違いはないかなというよう

には思います。

◇教育委員（三浦弥生） はい、よくわかりました。ありがとうございました。

○教育長（代田昭久） ほかにいかがでしょうか。

上河内教育委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） 例年どおりいうか、中学生になるとぐっと増えるというは、やはり思春期の難しさもあるのかなというふうに思いますが、やはり子供がどんどん少なくなっている中で、在籍比が減っていかないということが近年の現象なんだなというふうに見せていただきました。

そんな中で、4ページの4の考察の3では「学級以外が居場所の不登校児童生徒が小学校8名、中学校34名」というふうにありました。やはりその学校以外でもいいから居場所があるといいなというふうに思います。

家にずっといるという状況は本当に本人も苦しいと思いますし、家庭の状況どんなふうかそれぞれかと思いますが、大変苦しい状況だと思います。

なので、協議会のほうでも紹介があったように、図書館でならというお子さんには、図書館でちょっと勉強してみようかっていうふうでも良いと思いますし、それこそ動物園に行ってみて良いんじゃないかっていう、そうやってその社会の中で交流があること、そして何か自分が関わって誰かと関わって、それで認められたりとか、思いやりを掛け合うっていうような体験、実体験を少しでもしていけるようになればいいなというふうに思います。

今、飯田市のほうでそういった取り組みを本当にこつこつとされている多くの先生方もいらっしゃると思いますので、先生方が本当に大変にならないように、大人がやっぱり幸せでないと子供に幸せは伝わらないと思いますので、皆さん、みんなで良い環境になるようにというふうになることを願っております。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） ありがとうございました。

教育長報告でICTの件、触れたので、ICTがすべてではないんですが、ICTは1つのきっかけが、ツールになるっていうことは可能性があると思っています。

実際に今教育支援指導主事が中間教室、校内の中間教室で教室のライブ中継をしてみようっていうのだと、見える子供も出て来ているということや、また1人1台のパソコン、今ま

であり興味がなかったんだけど、パソコンが自分のものになるとフリーソフトで動画を見
てみると、勉強動画を探して見てみることも少しずつ可能性が出てきたっていう報告も受け
ています。

ですので、不登校が多くなったということよりも、問題は不登校の子供たちが1つの原因
である学力の不振ですね、勉強についてこれなくて教室には入れないっていう状況をつくら
ないためにも、ICTを1つ有効なツールとして活用できれば良いかな、そんなふうを感じ
ています。

ほかにご発言がありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長(代田昭久) それでは、協議事項、閉じさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

日程第8 陳情審議

○教育長(代田昭久) 続きまして、日程第8、「陳情審議」。

今月の陳情審議はございません。

日程第9 その他

○教育長(代田昭久) 日程第9、「その他」。

(1) 教育委員報告事項

○教育長(代田昭久) 教育委員報告事項。

教育委員の皆さんで、報告事項があればお願いいたします。

北澤教育長職務代理者、お願いします。

◇教育長職務代理者(北澤正光) 大きくは2点になりますけれど、2点目のほうは3つほどにわ
たるので、ちょっと長くなることをお許してください。

今日は、いくつか話題になっている少子化の今後に向けてのこととか、ICTの研修のこ
ととかと重なっているのでここで報告させていただきます。

まず1点目は、前回のこの会でも三浦教育委員から竜丘小学校の自由画展の報告があった
のですが、それ聞いてこれはぜひ行かなければと思って私も遅ればせですけど行ってき
ました。

この会期が 10 月 3 日から今月の 8 日までだったのですけれど、行かせてもらって見てきた中で、さっき ICT の活用とかというような話もあったのですが、改めて教育というのは最後はやっぱ人、その人をいかに生かすかっていうところに帰るなということを思っ
て見てきました。

ちょうど木下紫水先生が、今で言う生活記録、当時の日記に本当に丁寧なコメント、それから作品に対しても実に丁寧なコメントを書いて、どれも温かいコメントなんですよね。結局、最も根幹になるところは、その人そのものの存在を肯定するという、そのところを改めて大切にしたいなああと、本当に丁寧な書き込みを見ながら思いました。

ですから、学校訪問に行かせてもらったときにも、学校でも様々な工夫されて、子供たちの作品や、夏休みの一研究等に丁寧に付箋を貼られて先生がコメントを書かれてある、そういう学校も多かったのですが、でも中にはただ貼ってあるだけ、飾ってあるだけという学級があったことも事実なので、そういうようなことを先人たちの実践からぜひ学びたいな
ということを思いました。

それから、展示を見ていると竜丘小のことばかりが話題になっていますけれど、竜丘小に限らず松尾小とか、座光寺小、それから鼎小、追手町小、伊賀良小、千代小とかって、多くの学校がそれを受け止めて同じように実践されていたということも見させてもらったときに、先人たちも常に求めて教育をしていたんだなということを学ばせてもらいました。と
っても良い企画のものを展示していただいて嬉しいなと思いました。

今月はまた 15 日から、「現代の創造展」も企画されているように承っていて、これは私、毎年、楽しみにして行かせてもらっているのですが、今年もぜひ早いうちに行きたい
と思いました。それが 1 点です。

2 点目は、昨日ですが、市町村教委連絡協議会の代議員とそれから県の教育委員会との教育行政懇談会というのがあって行かせてもらいました。

その中で先ほど竹村さんのほうから報告がありましたけど、少子化時代における学校のあり方ってということが協議題の 1 つ目でした。県から話されたことをプリントにしてこよう
と思ったんですけど、昨日 17 時まで長野市でそれをやっていて、それから帰ってきたりしていたのでプリントにできなくて口頭になってしまい申し訳ないのですが、

県から示されたのは、世界的に 1 学級の人数は 20 名というようなところが適当だっ
ていうふうに議論されているけれど、それが実証された根拠というのはいない。それで国は今、学校の適正規模としては、とにかくクラス替えができるということで、小学校では 12 学級以上、中学では 3 学級以上っていうこと。それから中学では部活動がある程度選択してできる

っていうこと。それから複式にならないということを適正規模として示しているのだけでも、長野県の現状からすると、その1学級の人数は、小学校では25名から30名の教室が一番多い。それから中学では30人から35名っていう教室が一番多いという県内の状況であると。

それで国では今、1学級の人数を40名から見直して30名学級にする方向で議論の最中ですけど、長野県の場合はもう10年以上も前から小一から中三まで全部35人以下学級に全国に先駆けてなっている訳です。

そんな県の状況の説明があった中で、懇談でいろいろ意見交換した中では、1つは20～30年後を見据えてやらないと、計画してもすぐにまた見直しをせざるを得ない状況が生まれてしまうというような意見。それから中山間地の地域にとっては、「学校というのはコミュニティの中心で灯火だと。学校がなくなってしまう地域はどうなるかっていうようなことは、どうしても1つの観点としては持っていなければならない」というような意見もあったんですけど、これからの時代を考えると、さっきも話題になっていたんですが、人数ありきという、行政面から採算がとれるかというような考え方ではなくて、子供たちにとってとにかく魅力のある学校、学びの場の確保というのが第一ではないか。そう考えていくと、遠隔での合同授業とか、そのとき県は上村、和田、天龍小の合同遠隔授業なんかを例示して、こういうあり方もあるので、必ずしも人数だけで学校統廃合といったことを考える時代ではないというような話もありました。そういうことができる時代になっているということも考える観点の1つであるといったようなこと。

それで情報交換した中で、多くの市町村で検討会を立ち上げているのですけれど、聞いた範囲では、適正規模がいいのか、少人数でもやっていくのかっていう、その両論がいつもあって、どちらにするかというのはとっても難しい、みんな悩んでいるということ。

それから子供中心とか言いながらも、さっきもありましたけれど、建物は1年ごとに古くなっていくので、ハード面の改築というのが待てない状況もある。なので、やっぱりそのところが難しいという話。それからここ5年ほどで統廃合して閉校になった県内の16校を取材されたっていう方がいて、その方の話がありました。結局、「人数ありきということじゃない」と言いながら、統廃合した16校のうち大多数の学校は、結局少人数となったことを理由に閉校になっているという現実がある。

理想を語りつつも、最後のところは人数といったようなことが大きな条件になってしまうっていったような、懇談会なので結論が出る話じゃないんですけど、そんなやり取りがあって、飯田市でもこれから少子化の状況を考えてみたときの1つの観点というか、それを見て

いくのに大事なことだなんていうことを思いながら昨日受け止めてきました。

あともう1点は、さっき教育長報告にもありました教員の人材確保と、それから働き方改革といったテーマで話し合いをしました。講師の確保については、県のほうでも現場からの声を受け止めて、月に1回ずつ講師名簿を更新して、正確な情報把握には務めてやってきてると。それから、今までだと2次試験が終わった後、不合格になった方に講師登録しませんかっていう声かけをしていたけれど、今年からは1次試験が終わった段階で、全員の皆さんに結果がどうであれ「講師登録しませんか」というふうに例年より2カ月前倒しで声かけをして講師の名簿に登載をしてもらおう動きをしている。ただそうではあるけれど、不足していることについては、県も同じように悩んでいて、特に年度途中で講師が必要になったとき、非常に不足が深刻であるっていうことは県のほうも認識しているという状況でした。飯田下伊那はそれに輪をかけてこの年度途中で講師の不足は深刻な状況だということです。

後もう1つの働き方改革の話ですが、とにかく今進めている目的は、「子供と向き合う時間を取るため」、そのために人的物的に改善できることは精一杯変えていこうというのが一番の目標で進めていると。そうした中でICTの活用も含めていくことはとても大事な1つの助けになるという中で、飯田下伊那の14市町村の連携した研修については、県としてもとっても注目していると。ぜひ紹介して欲しいとの突然のふりで紹介をしてきたんですけれども、さっき教育長から7団体の陳情の話もありましたけれど、そういったことが効いていると思うんですけど、県として今検討しているのは、来年からICT教育推進センターというのをつくって、一人一台タブレットでどんな取り組みができるのか、どんな授業ができるのかっていったようなことを学校現場に例示していくような、そういう取り組みからぜひ進めたいというような話がありました。

それで、「小1や小2にタブレット端末を渡して何ができるの」というのは必ず聞かれるが、ちょっと頭を柔らかくすると、文字が打ち込めない小1、小2でも使うことはいっぱいあるっていうことが、特に発想が豊かな若い担任からは次々とアイデアが出てくるので、そういったものをぜひ現場に発信していきますという、そんな学びの改革支援課長の力強い言葉があります。

最後に感じたことですが、飯田市のこの取り組みは、本当に事務局の皆さんのおかげがあって、県の中でも随分早い取り組みになっていることを改めて感じてきました。

昨日もあちこちから出ていた質問は、「充電はどこでやってくるのか」とかから始まって、「IDをどうやって貰えるんだ」みたいな話をしている方が結構多くて、そういう点でいくと、飯田市は9月30日に渡したって話からしてびっくりしている皆さんが結構いて、

せっかくここで早めてもらって取り組んでいることを、改めて何とか一步先に行っているものを、そのまま先にいったままで進めていきたいなあということを思っています。

昭和50年代の後半頃に、学校ではL L教室っていうのが盛んに国策で入ったんですけど、ほとんどの学校が、結局機器を活用しないまま、最後はその機器は邪魔者になって、今どこの学校でもそれを廃棄して中会議室とかみたいになっちゃっているんです。ああいうものの二の舞にはぜひしない、今回の導入に対しまして改めて思っただけ帰ってきました。

あと最後に1点、コロナ対応のことです。

ちょうど学校の子供さんが感染者になった、中野市とか、大町市とか、伊那市の教育長さんが来ていたのでお話を伺った中で、学校が最善の感染対策をしてやっているのだから、コロナに感染ということは今までほとんどないと。結局、最大の防御は、家庭での健康管理、それが最大の予防じゃないかと。そうなったとき学校と家庭がいかに緊密に連絡をとれているか、日頃の関係づくりがとっても大事で、学校便り等で情報を密に共有しているといったような、そういうことがすごく大切だと。

家庭で発熱者があつたり、それからPCR検査を受けたりしている、そういう情報をすぐに知らせてもらえないような状況になっていると、いくらみんなで頑張っても後手に回ってしまうので、そういうことをすぐに知らせてもらえるような関係を日頃つくっていくのが一番大事じゃないかっていう、そんな話がありました。

長くなりましたけれど、大事な点だったので共有させてもらいました。以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 先ほどの話と今の職務代理の話もちよつとつながっているんですが、学校訪問において、そうですね、後半辺りからちょうど飯田市のタブレットが配られて、ちょうど訪問する中でタブレット対応を見ることができたんですけど、三穂小学校は校長先生自らとか、あるいは遠山中の場合は先行して入ったということで、もう行くとガイドラインなんかできていて、もう先行しているのは知った。特に西中です。西中が授業を見させていただくと、あらゆる教科でもう積極的にタブレットを取り入れて、まあ校長先生が自らの方針だと思うんですけども、それが見事に行われてたなあそんな感じがします。

今までの授業だと、どうしても先生が授業をして、板書したりして授業をするんですが、生徒はどうしても受動的になるんですが、やはりICTはやっぱり自分が入っていかないといけないんで、やっぱり能動的なるんですね。やっぱりそうすると生徒の中に、児童の中に

あさってのことや、違うことを考えている子供もいるとは思いますが、能動的にならざるを得ない。要するに関心とか興味を持って行かざるを得ない。自分で操作しなきゃならない。また画像とか画面見ると感覚もピッピピッピ、ピッピピッピくるんで、よりそれが能動的になるということで、これがICT教育のすごい良いところなんだなっていうふうに思いました。

先ほど教育長がおっしゃっていたように、不登校の場合とか、授業になかなか取り組めない児童生徒もICTによって入ることができるんだと。まさにこれがコロナの前から飯田市の場合はICT教育、教育長自らやってきたわけですが、率先してやっているわけなんですけども、ここに来て本当にそれがさらに、今こういう社会現象だとはいえ定着して、これがさらに推進されていくのかなあとそんな感想を持ちました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

はい、上河内教育委員、お願いします。

◇教育委員（上河内陽子） まずは飯伊市町村教育委員会連絡協議会でICTのタブレットを飯伊の皆さんと、教育委員の皆さんと体験をしたことは大変有意義でした。

初めてクラスルームというのを使って、クラウドとって、みんなでこの共有していろいろなことができるというのを体験して、新しく世界が広がっていくという子供たちと同じような気持ちになることができました。

そんな中でやっぱり、どこの市町村さんも人が欲しい、人がいない、それを課題に挙げているということがすごく感じました。それで共有をすることで、今後この飯田下伊那で広がっていくことができるのが、すごくいいなというふうに感じました。

特に喬木村ではとても、6年間ICT教育をやってきたので、成果も見えてきているということでした。CRT検査でも前年度と比べて向上しているとか、思考力や読み取る力が高くなっているというような報告を喬木村の方からはいただいたりもしました。

今後県でもそのICT教育推進センターができるということでしたけれども、もう今現在始まっているので、飯田市の先生方には、どんどんその自分たちでできることをどんどんやっていっていただいていると思うので、柔らかな頭で進めいっていただけるんじゃないかというふうに期待をしております。

もう1つ報告ですが、10月24日に飯田市立動物園でアニマルナイトキャンプというのがありまして、「ビーバーについて知ろう」というイベントに私のほうも、子供たちにスタッ

フ対応として参加させていただきました。

ここでは、アニマルナイトキャンプとしてテントを立ててみたりとか、下の四季の広場を使ってテントを立てるっていう経験をしたりとか、あとは上へ行ってみんなでピザを焼いて食べたりもするし、工作をするっていうようなことをしたり、最後にビーバーの部屋、家に入ってビーバーのいろいろなお世話をしたりとかっていうことで、大体 15 組の親子が参加したと思います。

それを立ち上げた、そういうイベントを立ち上げたのは飯田市立動物園の 20 代から 30 代のスタッフの方々でした。

飼育員の方とお話をしたところ、飯田市の出身者ではない、皆さん、福島とか茨城とか静岡とかいろんなところから縁があって飯田市立動物園に飼育員として来られた方が多いということを知りました。

飯田市では動物園に無料で子供たちも入れます。そしてそういう子供たちにいろいろなことを教えたいというふうに願うスタッフの方たちもいることを知り、ああこれが地育力といえますか、地域の財産だなあと、街中にある飯田動物園というのを見直すきっかけをいただきました。

子供たちもいい顔をしてビーバーのお世話をしたと思います。そういうことを 1 回でも体験できた子供は、幸せなんじゃないかなというふうに感じて帰ってまいりました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

貴重なご意見ですね。ありがとうございます。

三浦教育委員、お願いします。

◇教育委員（三浦弥生） それでは私は、飯伊市町村教育委員会の秋季研修会ということで、その感想です。

まずは、私申し訳ありません。第二分散会の書記をやっておりましたが、報告用紙があったことをちょっと知らずに普通の自分のメモのようなものをそのまま進行してらっしゃった教育長に渡してしまったんですが、それでよろしかったでしょうか。本当に申し訳ありませんでした。もし必要でしたらきちっとまとめ直しをしますので、よろしくをお願いします。

そんな中で、一通りこの自分のタブレットの体験をさせていただいて、学校訪問で子供たちが「ワー」と言いながらやっていたところを、自分でちょっと体験といったところでは、これからこういった学びが始まるんだなっていうことを実際に体験させていただいたんだなっていうふうに思います。

この分散会では本当に、意見の中では本当に何を懸念といいますか、いろいろな教育委員の皆さんがちょっと心配してらしたのは、人と人のつながりといったところと、ICTというツールをどのようにもっていくのかなっていうところは、心配されていた部分なのかなというふうに思いますし、またそういったものを上手に使うことで、またそういったつながりというものも幅を広げていけるんじゃないかなといったようなところの共有ができたのかなというふうに思いました。

またもう1つは、やっていらっしゃるこれからこれを学びのツールとして使う先生方に対しての力量形成と、先ほど職務代理のほうからICTの教育推進センターというものができてというお話をいただきまして、いろいろな若い先生からちっちゃい子供たち、低学年の子供たちにもたくさんアイデア、先生方から寄せられているんだよってというようなことをお聞きしました。

本当に私も学校訪問とかさせていただいて、いろいろな先生方と子供たちの関係を見る中で、本当に先生方というのは子供たちのワクワクしたような声や姿を見て、それを活力にいろんなことを本当に考えてくださっているんだなということは感じるどころです。

ICTというそんなツールであっても、子供たちの「ワー」というようなそんな声を聞きながら、本当に先生たちも子供たちと今は同じテーブルで切磋琢磨してあぁいった道具を使う方法を構築してくださっていくんだらうなっていうところを感じたと、そんなような感想です。

もう1点、先ほど職務代理からのお話の中で、それこそ廃校になった16校について、市町村教委と行政との懇談会ですか、そのところでの廃校16校を取材してというような人がいて、やはり行政、お金、コスト面での廃校というものがちょっと多かったってというようなコメントがあったというようなお話を聞きましたけれども、その例えば取材している16校の廃校のところを取材してくださった方に、そのコミュニティというものが廃校になったことで低下してしまったとか、地域に及ぼす影響というものは何か取材した中で何かありましたか。

◇教育長職務代理者（北澤正光）　そこまでの話は、その場では聞けなかったです。現在その方は、上田市の職務代理さんで良く存じ上げている方ですけど、その方からの紹介というか全体での話がありました。機会を改めて聞こうと思えば聞くつてはあります。

◇教育委員（三浦弥生）　変なことお聞きして済みません。なぜそんなことお聞きしちゃったかなという、やはりこういった地域においては、先ほどもこのコミュニティというものと学校というものが本当に大切である。そんな地域性があるといったところは、一番本当に感じる

ところでして、「子供が少なくなったからスパンと廃校」っていう、そういったような考え
方ではなくて、学校がなくなってしまうとコミュニティが低下してしまうと、そんなところ
もあるわけですし、先ほどから出ている、子供たちには本当に学ぶ環境を切磋琢磨できるよ
うな学ぶ環境を、できれば本当に肌と肌、体温が感じられるような環境で学びの提供をなん
というふうに思うんですけれども、どうしても子供たちのことを考えてと思いつつ、大人た
ちはやっぱりコミュニティというものをどのように保っていくかということも考えてしま
う。

そういった中でやはりその廃校、学校がなくなることで本当にコミュニティというものが
低下してしまうのか、学校がなくてもコミュニティというものは保てるものなのかと、自分
もちょっとそんなところが不確かなので聞きたいなと思った次第です。

先ほども冒頭に少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取り組みということ
での報告をいただいて、これからいろいろな話し合いがされるということですが、そ
ういったこの学校のあり方についてもそういったコミュニティをどうするのか、学校がある
ないに関わらずコミュニティというものは持っていけるのかと、そんなところもちょっと自
分興味のあるところでした。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

委員の皆さん、ありがとうございました。引き続きよろしく申し上げます。

（２）教育次長報告事項

○教育長（代田昭久） それでは続いて、「教育次長及び地域人育成担当参事報告事項」お願
いします。

◎教育次長（今村和男） ありません。

◎地域人育成担当参事（青木 純） ありません。

○教育長（代田昭久） はい。

（３）学校教育課報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「学校教育課報告事項」お願
いします。

田中教育指導専門主査、お願
いします。

◎教育指導専門主査（田中清一） お願いいたします。

副学籍制度の見直しについて、定例会会議事項の資料N o 2になります。見直しに関わ

てのご提案といたしますか、ご報告でございます。

この会でも昨年度来ずっと委員の皆さんからご質問やご意見もちょうだいしながら課内で検討を続けてきたことについてです。

副学籍制度ですけれども、ここにありますような目的で平成28年から始まっております。今年で5年目になります。3年ほど前から飯田養護学校と飯田市の関係部局との懇談会等がございまして、その中で実は、副学籍制度の見直しについての要望等が出ておりました。そういったことを受けて、2ページにあるような形で副学籍制度の見直しを図りたいということで検討を進めてまいりました。

本日は、過去4年間の取り組みの成果と課題を踏まえまして、次のような意図を持って制度の見直しを図り、副学籍による交流、共同学習の充実による共生社会づくりを推進するという目的でございます。

それで1つは、「障がいの有無にかかわらず、飯田市に住む子供は飯田市で育てる」の理念というものを制度として、より明確に示すということがございます。2つ目としましては要綱の第1条に掲げております目的の具現をより推進するという事なんです。

それで具体的な内容ですけれども、現行と見直し後ということで分けて書かせていただいています。

現行は、保護者が「副学籍制度を利用したい」と申し出があった場合に、当該の児童生徒の居住地の小・中学校を副学籍校として指定するという形になっています。この後、交流を具体的にしないということに関しても保護者に尋ねています。

見直し後なんですけれども、これをこのように変更したいと考えています。教育委員会は就学・進学先が特別支援学校に決定した飯田市に住民票を持つ児童生徒について、当該児童生徒が居住する地域の小・中学校を希望の有無に関わらず副学籍校として指定する。で、この先は同じです。交流するしないということにかかわっては、実は「望まない」という保護者の方もおられます。ですので、そういった保護者の方のお考えを尊重するという立場で、今までどおり交流等については選択をしていただくという形です。

それと見直しに伴って生ずる変化なんですけれども、いくつか下のところに書かせていただいていますけれども、共生社会の実現に向けてというところで、この制度の見直しが教職員に及ぼす、私は制度、プラスの部分の影響かなと考えておるところを、ポツのところではいいですと3個目のところからなるんですけれども、ここに書いてあることを考えています。

市の教育委員会からいわゆる副学籍の該当児童生徒が在籍することになる副学籍校へ該

当者の名簿というのが通知されます。そうしますと、現在は学区内にいる、いわゆる特別支援学校に通っている子供さんの存在というのは、副学籍を選択しない限りはまったくわからないままなんですけれども、教職員は不可避にこういう子供たちが学区にいるんだということが理解できます。

守秘義務が当然ございますので、それはみだりに口外することはないわけですので、不利益を被る方っていうのは基本的にいないというふうを考えられます。

それだけではなくて、副学籍校においては、要綱にもあるんですけれども、特に学籍の根拠になる指導要録の整備をすることになります。単純にいますってだけでもって放置せずに、所属学級を決めて指導要録の整備していくってことになると、学級担任は交流するしないに関わらず、そういう子供さんがいるんだということを認識することになります。

こういったことによって地域に障がいを持った方っていうのが確かにいて、場合によっては考えようなんですけど、そういった方々との交流ですとか、あるいはそういった方々にアプローチをして、自分自身が障がいを持った人々の生活等で理解をしていくって、その足がかりにもなるっていうところです。

見直しのスケジュール等については、以下に書かせていただいたとおりでございます。

次ページのところには、現行の副学籍による交流及び共同学習を周知するためのリーフレット、それからその裏面には、改定案の形になっていますけれども、今、依拠している実施要綱のいわゆる改訂版を載せさせていただいています。

以上でございます。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

こちら等、後になりますがお意見等あればお願いしたいと思います。

（４）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」お願いします。

◎地域人育成担当参事（青木 純） ありません。

（５）公民館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「公民館関係報告事項」お願いします。

◎市公民館館長（秦野高彦） ありません。

（６）文化会館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて「文化会館関係報告事項」をお願いします。

棚田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館長（棚田昭彦） それでは冊子の資料N o 3 をご覧いただきたいと思います。

人形劇とまちづくりの推進に関する取り組みについてご報告申し上げます。

1 番の公演事業でございますが、(2) 番、実施済みの事業で、10 月に定期公演を開催いたしました。(3) で今後の予定ですが、定期公演 11 月、済みません、11 月 17 日土曜日になっておりますが訂正をお願いいたします。11 月 14 日の土曜日になります。17 を 14 に訂正をお願いいたします。コロナ対策を、感染防止対策をしながら、完全予約制という形で定期公演を開催するようになっております。

あとご覧のように「ましゅ&K e i のクリスマス会、森ぼかぼかクリスマス」等を公演する予定となっております。

次に 2 番の下の段ですが、創造支援事業になります。(2) 番、今後の予定の中で丸 4 つあるうちの 1 番下であります。中学生を対象した「ユースクラブ短期ワークショップ」ということで開催を予定しております。

次のページ、2 ページをご覧いただきたいと思います。フェスタの関係ですが、1 番上に書いてありますが、「学校人形劇の祭典 2020～見よう・演じよう・伝えよう～」ということで、地区の実行委員会のほうで 11 月 1 日に上郷公民館で関係する中学校、小学校の人形劇団のほうの公演がございました。

4 番の国際化推進事業でございますが、(2) 番、実施済み事業の中で「伝統人形芝居を通じた交流」ということで淡路人形協会が主催となりまして、テレビ会議を使いました人形浄瑠璃の後継者の団体間の交流が実施されました。地元では竜峡中学校と高陵中学校の人形浄瑠璃クラブと一緒に交流したという状況です。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

(7) 図書館関係報告事業

○教育長（代田昭久） 続いて、「図書館関係報告事項」をお願いします。

瀧本中央図書館長、お願いします。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いいたします。

図書館からは 1 件行事のご紹介をさせていただきます。

緑色のお配りしましたプリントをご覧ください。

12月13日に行われます「飯田・下伊那読書会交流会」のご案内です。

この地域にはかつて非常にたくさんの読書会がありまして、みんなで一緒に本を読んでいますということが行われておりました。現在飯田下伊那にはおよそ40弱くらいの読書会があるんですが、その読書会も高齢化などでだんだんと減ってきてしまっているという状況があります。

そこで下のほうに主催というところに書いてありますけれども、飯伊婦人文庫の皆さんや読書会有志の皆さん、それから図書館と公民館が一緒になって実行委員会をつくりまして、今読書会をやっている皆さんも元気に継続していきたいということと、それから読書会をぜひこれから新しく始めたり参加していただく方を増やしたいということで、読書会の交流会を行うことを始めまして、今年、第3回になっています。

コロナ対策ということで、例年図書館で行っておりますけれども、鼎文化センターのほうで行ってございまして、どなたでも参加が自由ということでありまして、ぜひ大勢の方にご参加いただきたいというふうに思っています。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（8）美術博物館関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「美術博物館関係報告事項」をお願いします。

久保敷美術博物館副館長、お願いします。

◎美術博物館副館長（久保敷武康） 本日、お手元に2枚のチラシをお配りさせていただきました。

「12月びはくにゅーす」とプラネタリウムの冬の番組案内ということでこれをお配りさせていただきましたので、ご覧いただいて時間をつくっていただきましてご覧をいただければと思います。

もう1点、先ほど職務代理のほうからもお話いただきました「現代の創造展」ですが、11月15日から12月6日まで開催しております。あす、あさつての展示のほうを進めて日曜日からということになりますのでご案内をさせていただきますが、それが終わりました12月7日から1月29日までその春草室、展示室ABの3室ですが、工事を予定しておりますので併せてご案内をさせていただきます。よろしく願いいたします。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

(9) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（代田昭久） 続いて、「歴史研究所関係報告事項」をお願いします。

北原歴史研究所副所長、お願いします。

◎歴史研究所副所長（北原香子） お願いいたします。

先日、過日の定例会のほうで、飯田アカデミア第93講座がありましてご案内をしました。これは11月14日に開催をする予定でございましたけれども、このコロナ禍の中で講師先生の都合によりまして中止することといたしました。また今年度は、もうちょっと開催、講師先生の都合で開催ができませんので、また来年度、都合がつくようになれば開催をしたいと思っております。

また今後のアカデミアにつきましては、1月と2月に予定しておりますが、これにつきましてはオンラインで開催する予定としております。

また改めてご案内いたします。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございます。

ただいま学校教育課から歴史研究所までの報告事項がありました。何かご質問ご意見等あればと思いますが、学校教育課から出た案件に関しては、ご報告というよりは、もしご意見があればしっかりいただき進めていく案件ですので、もしご意見があればここでお願いしたいと思います。

副学籍についてです。

北澤教育長職務代理人、お願いします。

◇教育長職務代理人（北澤正光） この4年間の取り組みを踏まえて、さらに一步踏み込んだ前向きな取り組みだなあというふうに思います。これを押しつけといったように受け取られると困るんですけど、当該校が本来なら自分の学校に来るはずのお子さんが、養護学校で学んでいるんだっていう認識で承知をしている形をつくるっていうのは、とってもいいなというふうに思いました。ぜひこの方向で進めていただきたいと思います。

○教育長（代田昭久） はい、副学籍制度の見直しについてご意見をいただきました。

ほかの委員の皆さん、もしあればお願いします。

伊藤教育委員、お願いします。

◇教育委員（伊藤 昇） 意見というより感想になりますが、長年の懸案事項が一步進まれたなど、進んだのかなと、そんな思いで聞いておりました。

以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） では、これでこの副学籍制度の見直しの案件については、委員の皆さんからご承認いただいたということで、この方向で進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

その他、ほかにありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

（10）今後の日程について

○教育長（代田昭久） 10番、今後の日程についてお願いします。

滝沢学校教育課長補佐、お願いします。

◎学校教育課長補佐（滝沢拓洋） それでは、本日の資料の3ページをご覧いただきたいと思っております。

まず次回の12月の定例会ですが、12月14日月曜日を予定しておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

連日で恐縮ですが、明日13日金曜日午後2時半からりんご並木にて、りんご並木収穫祭を予定しておりますので、お時間ございましたらご出席をお願いしたいと思います。

今後の予定につきましては、以上です。

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

ただいまの日程のことについてご意見ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） 日程9の議題を含めて、今日、用意された議案は以上です。

その他、ご発言あればお願いします。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（代田昭久） はい、ありがとうございました。

日程第10 閉 会

○教育長（代田昭久） 日程第10。

以上をもちまして、令和2年度11月定例会を閉じさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

閉 会 午後4時15分